

2023 年秋期(11 月 14 日~12 月 15 日)

高校への新聞無料配布活動 配布高校報告書

- ・北海道岩内高校
- ・北海道上磯高校
- ・北海道留萌高校
- ・北海道別海高校

(公社)日本新聞販売協会北海道地区本部

2024(令和6)年2月吉日

関係各位 様

公益社団法人 日本新聞販売協会
北海道地区本部長 鈴木 信善

「道立高校への新聞無料配布事業」報告書送付について

日ごろから公益社団法人日本新聞販売協会北海道地区本部の活動にご理解とご協力をいただき、誠に感謝する次第です。協会は、新聞の健全な普及に努め、活字文化の振興に寄与しつつ、地域社会と一体となった新聞販売の発展に向けて活動を行っており、その一環として、過去6回(2016年、17年、19年、22年、23年春、同秋)、朝日、毎日、読売、道新の朝刊を期間限定で高校の希望クラスに無料配布いたしました。

23年秋実施は、道教委の指導の下、道内4ブロックからそれぞれ1校を選んでもらい、11月14日～12月15日の約1か月間、無料配布活動を行いました。このほど、新聞を教材として使用した授業の報告書がまとまり、各新聞社、各事務局、配布をお願いした販売店に送付させていただきます。

今後とも、当地区本部の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

▽配布高校＝岩内高校(道央)、上磯高校(道南)、留萌高校(道北)、別海高校(道東)

お問い合わせ
北海道地区本部事務局(北海道連合読売会)
TEL 011-210-5213

以上

「令和5年度公立高等学校における新聞を活用した取組」実施報告書

学校名	北海道岩内高等学校	学級数	3学級
担当者	杉江 和樹		
実施科目	公共	単位数	2単位
学習内容 (単元名等)	現代の経済社会と国民生活		
授業の目標	市場や金融の考え方を働かせて、新聞から物価変動に関する情報を適切に取り取り、多面的・多角的に考察する力を身に付ける。		
授業の問い	「今後、日本の物価はどのように変動するだろうか」		

実施日	学習の概要（展開内容）	指導上の留意点	学習形態・評価等
① 12月8日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の物価変動の状態について確認する。 問「需要と供給や通貨供給量、円の価値に関する記事にはどのようなものがあるか」 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から需要と供給や通貨供給量、円の価値に関する記事を選択し、分からない用語をワークシートに書き出して調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省の2023年基準の消費者物価指数のグラフと表を活用する。 ・ワークシートを配付する。 ・グループごとに1週間分の4社の新聞を配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習 ・グループ学習 (1グループ5名)
② 12月11日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・前時に選択した新聞記事の内容を理解することができたかを確認する。 問「需要と供給や通貨供給量、円の価値は物価にどのように影響するだろうか」 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・調査した需要と供給や通貨供給量、円の価値の変動に関わる出来事や金融政策が物価にどのような影響を与えるかを予想し、理由とともに記入する。 ・新聞記事の概要と物価への影響について、予想した理由をまとめたスライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートを活用する。 ・以前の授業で触れた需要と供給や通貨供給量、円の価値と物価の関係について全体で再確認する。 ・ワークシートを配付する。 ・スライドの作成に当たっての留意点を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習 ・個人学習

③	12月15日 (金)	<p>○ 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表形式と手順を確認する。 問「今後、日本の物価はどのように変動するだろうか」 <p>○ 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で新聞記事の概要を共有するとともに、物価変動について予想し、予想を立てた理由について共有する。 ・グループ内での共有をもとに、改めて今後の物価がどのように変化するかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・1人3分以内の発表とする。 ・他者の調査内容の要点を適切にメモするよう促す。 ・自身の予想と他者の予想を比較し、多面的・多角的に考察するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習 ・グループ学習 (1グループ5名) ・個人学習 【思・判・表】 問について、需要と供給や通貨供給量、円の価値に着目し、物価の変動について多面的・多角的に考察することができる。
---	---------------	---	---	---

授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・市場や金融など経済的な見方・考え方を働かせて、物価変動について多面的・多角的に考察する。 ・自身の調査した内容と他者が調査した内容を対比し、自身の考えを深める。
新聞を活用した場面	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を活用し、需要と供給や通貨供給量、円の価値に関する情報を読み取る。 ・新聞記事の読み取りをきっかけに、分からないことを調べる。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から必要な情報を適切に読み取り、まとめる技能を身に付けることができた。 ・新聞から得られる情報から、今後の経済について考察する活動を通して、経済に関心を持つことができた。 ・授業を通して得た知識と社会とのつながりを実感し、当事者意識を持つことができた。 <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞に書いている言葉の意味が分からないため、新聞やニュースに興味はなかったが、1つ1つの言葉の意味を調べることで、意味が理解できると思った。 ・日頃、食材をみて「高いな」と思っていたが、その値段が新聞やニュースで報道されている出来事と関係していることが分かった。 ・為替や金融政策以外にも、様々な出来事が物価に影響していることが分かった。一つの出来事で物価が決まるわけではないので、色々な情報から考えて判断することが重要であると感じた。

【授業の様子とワークシートの記載】




金融政策「挑戦的に」
日銀総裁 緩和「出口」意識か 毎日新聞 12/8(月)

概要 日銀の植田和男総裁は、12/7の参院財政金融委員会、
金融緩和の「出口」が近いことを示唆するような発言が相次いだ。

予想 物価は下落する

理由 金融緩和が終われば、通貨供給量が減少するので、
 物価が下落すると考えたから



③ 物価の予想

人々の考え

今後、日本の物価はどのように変動するだろうか

Step1	共有した人	予想	理由
さん	さん	上昇	・国内で、有効な賃上げが実現 ・日銀の金融緩和策により、物価が上昇
		下落	・通貨供給量の減少
さん	さん	上昇	・賃上げが進むため、物価が上昇する
		下落	・通貨供給量の減少により、物価が下落する
さん	さん	上昇	・金融緩和の継続により、物価が上昇
		下落	・金融緩和の終了により、通貨供給量が減少し、物価が下落
さん	さん	上昇	・賃上げが進むため、物価が上昇する
		下落	・金融緩和の終了により、通貨供給量が減少し、物価が下落
さん	さん	上昇	
		下落	

Step2

グループで共有した内容を基に、改めて物価はどのように変動するかと仮定してください。

【まとめ】 日銀銀行は金融政策で物価を一定に保つていくことを目指している。しかし、賃上げが進むと物価は上昇する可能性がある。また、金融緩和の終了により、通貨供給量が減少し、物価が下落する可能性がある。

氏名	学号	名前	学年・学期・科目
岸	岸		2020・B・C・D

「令和5年度公立高等学校における新聞を活用した取組」実施報告書

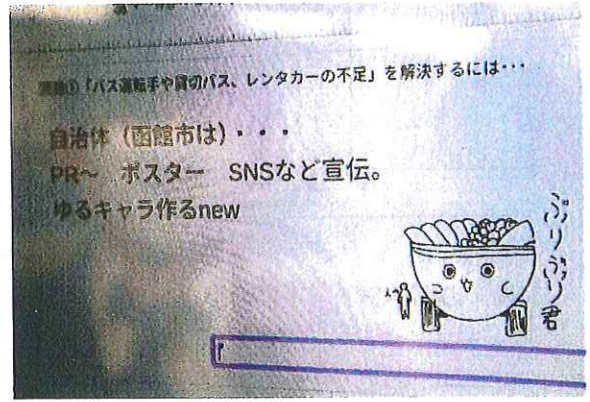
学校名	北海道上磯高等学校	学級数	3学級
担当者	川邊 智也		
実施科目	公共	単位数	3単位
学習内容 (単元名等)	地方自治		
授業の目標	地方の現状と課題を的確に認識し、新聞記事から得られた事実を基に解決に向けて協働して考え、自分の意見を表現することができる。		
授業の問い	「このまちが抱える課題について、自治体と私たちができることはなんだろうか？」		

実施日	学習の概要（展開内容）	指導上の留意点	学習形態・評価等
① 12月4日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 「新聞を開いてみよう」 ・新聞一紙の文字数を紹介する。発行数から創刊日を計算する。記事の内容ごとに「〇〇面」と分かれていることを説明する。 ○ 展開 「新聞記事を要約し、見出しを付けてみよう」 ・函館のイベント紹介記事を要約シートに記入する。見出しを隠した記事を配付し、見出しを班員で考える。 ○ まとめ ・新聞の概要や、見出しに込められた意味をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、新聞記事を読むことに慣れることを目的とする。 ・班員で要約シートを見ながら見出しを付けてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習・観察 ・協働学習（班）シートへの記入状況 ・個別学習シートへの記入状況
② 12月6日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 「私たちのまちは何にお金を使っている？」 ・令和4年度の北斗市と函館市の決算を読み取り、比較する。 ・「2つの市の財政、または福祉」という記事を読み取り、まとめる。 ○ 展開 ・特徴的な支出項目は何だろうか？ ・北斗市と函館市の特徴は？ ○ まとめ ・自分の住むまちの特徴と課題をジャムボードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上で比較する。 ・「扶助費」などの用語を説明する。 ・他自治体のデータも用意する。 ・2つの市の支出内訳・額を比較する。 ・共通点や相違点を明確にするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働学習（班）ジャムボードへの記入状況 ・協働学習（班）ジャムボードへの記入状況、観察 ・協働学習（班）ジャムボードへの記入状況、観察

③	12月8日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・「道南地方が抱える課題」が書かれた4つの記事を読み、要約シートに記入する。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・4つの記事の中から道南地方が抱える課題を見つけ出す。 ・班で以下の観点で話し合いを行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国ができること・やるべきこと (2) 地方自治体ができること・やるべきこと (3) 自分ができること・やるべきこと ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。感想をフォームに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業①で得た比較して読み取る力、授業②で得た地方財政の知識を活用するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習 ・協働学習(班) 観察 ・協働学習(班) 発表の観察、フォームへの記入状況
---	--------------	--	--	---

授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読むことを通して、文章を読み、理解する力を育む。 ・話し合いの議題として新聞記事を活用する。 ・意見の論拠として新聞記事を使うことができるようにする。
新聞を活用した場面	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を要約する力を育むために記事を利用した。また、記事のタイトル(見出し)を考える授業を行う際に新聞を活用した。 ・話し合い活動を行う際の議題として活用した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が記入したワークシートの記載内容から、文章を読解し、要約する活動を通して、思考力・判断力・表現力等を高めることができた。 ・生徒のワークシートの記載内容から、生徒に社会的な話題への興味・関心を持たせることができた。 ・4社の新聞を比較・検討したり、生徒同士が話し合うことで、生徒が多様な意見があると認識できる授業になった。 <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段新聞を読むことがないので、今回の授業を通じて、新聞について深く知ることができ楽しかった。 ・将来に関わることを新聞記事で考えることができた。

【授業の様子】



「令和5年度公立高等学校における新聞を活用した取組」実施報告書

学校名	北海道留萌高等学校		学級数	2学級（普通科）
担当者	鈴木 智仁			
実施科目	公共	単位数	2単位	
学習内容 (単元名等)	世論の形成と政治参加 (政治参加と民主政治の課題)			
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事等の資料から、様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる力を身に付ける。 ・よりよい社会の形成の参画のために、他者と協働して課題に取り組む力を身に付ける。 			
授業の問い	「社会の形成の参画に必要な知識を得るために、必要なことは何だろうか」			

実施日	学習の概要（展開内容）	指導上の留意点	学習形態・評価等
① 12月8日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 「知識の獲得手段はどういったものがあるだろうか」 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・2つの方法を選択※させる。 A：複数紙で取り上げている話題について、記事の取り上げられ方を比較検討し発表する。 B：複数日で取り上げられている話題について、時系列の変化を検討し発表する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・本取組を通じて、身に付けたい力を改めて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報」「知識」「知恵」の違いを理解させる。 ・2班となるよう話し合い調整する。 ・進捗状況が早い班は調べ活動に取りかかる。 ※話題選択は、生徒の実態や記事の内容を踏まえた上で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> [形]一斉 [形]グループ [評]ワークシート【知】
② 12月14日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 「効率良く作業をするために必要なことは何だろうか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時からの活動に取り組む際、「役割を適正に配分できているか」という観点を持つことを確認する。 	[形]一斉
③ 15日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで作業し、発表資料の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況に応じ時数を調整する。 	[形]グループ
④ 21日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・活動の進捗状況や改善方法を確認する。 		[評]ワークシート【思・態】
⑤ 12月22日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 「各班の活動との違いは何だろうか」 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでまとめた内容を発表する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・活動の進捗や改善方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班に「どのように協働して活動に取り組んだか」を発表させる。 ・発表資料はGoogleスライドで作成しモニター発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> [形]一斉 [形]グループ [評]Google フォーム【態】

<p>授業のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味を持ってそうな話題（政治に関する話題）を新聞から取り上げさせる。 ・グループ学習において、役割分担の意味と効果を実感させる。 ・12月8日の1回目の授業の展開で発表方法を2つから選択させることで、発表内容の違いを明確化させる。
<p>新聞を活用した場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話題について調べる際、各グループで2週間分の記事に目を通した。 ・発表形態によっては、新聞をスクラップした。
<p>成果等</p>	<p>【授業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、普段から新聞をほとんど読まないため、新聞に触れる機会をつくることで、情報源としての新聞の価値に気付くことができた。 ・生徒が、他の生徒と協働して学ぶことで、自己の役割の大切さや活動における自己の得意分野など、自己の特性の理解につながった。 ・生徒が授業のねらいを十分に理解していたため、生徒の自由選択としたテーマを適切に設定することができた。（裏金問題・ガザ侵攻・オスプレイ） ・生徒によるテーマ設定の過程で、テーマとは別話題の記事を見つけて読み込むなど、インターネット検索とは異なる情報の収集方法を知ることができた。 <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各紙の見出しにおいて、興味を引く工夫がされており、面白かった。 ・新聞の良さは、情報量の多さと細かさだと思った。 ・新聞社が異なると、得られる情報も微妙に異なることがわかった。 ・テレビでは映像のインパクトで自分の考えを誘導されてしまう面があるが、新聞はそれがないので冷静に自分の考えを保持できた。 ・各社同じ話題を取り上げていたとしても、その掲載方法等がどのように違うのかを細かく見ていくことが必要だと思った。 ・各社の同じテーマの記事を時系列に沿って比較することで、取り上げられ方や内容が変化し、面白かった。 ・掲載記事をただ読むだけでなく、自分の知識と比較しながら内容を頭に入れていくことが大切と感じた。 ・新聞をはじめとする情報メディアによく触れて時代の流れに乗ることが大切だと感じた。

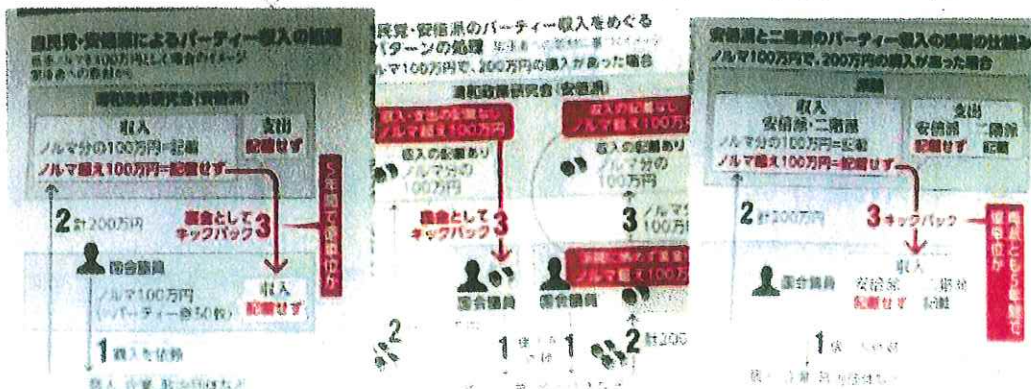
記事比較

この3つの記事を比べると

12月1日

12月2日

12月3日



オスプレイの記事比較

11月30日

朝日新聞



- ・ 通報された内容、時刻
- ・ 捜索の末わかったこと
(墜落した場所、機種、乗組員の安否)
- ・ 事故発生当時の状況

朝日新聞



【記事本文の要約】

米軍のオスプレイが、沖縄県那覇市の海上で墜落した。乗組員は全員救助された。地上部隊がオスプレイ機を捜索した。墜落した場所は、那覇市の海上で、オスプレイ機は墜落した。乗組員は全員救助された。地上部隊がオスプレイ機を捜索した。

【授業の様子】



「令和5年度公立高等学校における新聞を活用した取組」実施報告書

学校名	北海道別海高等学校	学級数	3学級（普通科）
担当者	日下 志織		
実施科目	政治・経済	単位数	2単位
学習内容 (単元名等)	第2編 現代の経済 2章 現代の日本経済と福祉の向上 労働問題と労働者の権利		
授業の目標	多様な働き方・生き方を可能にする社会について、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済を関連させ、多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。		
授業の問い	「早く働ける職場とはどのようなものか」		

実施日	学習の概要（展開内容）	指導上の留意点	学習形態・評価等
① 11月16日 (木)	<p>【中小企業～新聞に触れる～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・「中小企業に淘汰の波」2023.7.11（日本経済新聞）の記事を読み、中小企業の現状を把握し、要約をする。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の問題点を指摘し、その原因と対策を考察する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の内容を踏まえ、現状をよりよいものに変えていく産業や企業の在り方について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体、消費者及び労働者の利益などの観点から、企業規模や起業が経済活動に与える具体的な影響等について、探究できるようにする。 ・「倒産」という言葉の取り扱いには十分配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人 ワークシート ■ペアワーク 中小企業が活躍するために求められていることは何か考察し、表現している。（思） ワークシート ■個人 ワークシート
② 12月1日 (金)	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・戦後から今日に至る日本の食料、農業及び農村問題について、食糧自給率の資料を活用し、日本と他国を比較した場合、どのようなことが言えるか、ペアで考察する。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・国際化の影響を受ける農業には、どのような農政が必要であるか、考察する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・農業の安定と自由貿易をどのように調和させるか考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料の安定供給、生産や流通の革新、効率化、持続可能な農業、農村の振興、活性化などの観点から探究できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ペアワーク ワークシート ■ペアワーク 資料集を活用し、農業問題に関わる資料を読み取り、その問題点のみならず食料安全保障の確立の観点から考察し、表現している。（思） ワークシート ■個人 ワークシート

③	12月6日 (水)	<p>【公害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・公害の定義について確認する。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・公害問題について、過去の歴史を振り返り、その取組を確認する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・公害防止や環境保全のために、国や企業にはどのような取組が求められているのかについて、「持ち帰り容器にアルミ缶」2023. 11. 14 (読賣新聞)を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部不経済についての理解を基に、外部不経済の内部化の方法を多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人 ワークシート ■個人 ワークシート ■個人 企業にも関連している新聞記事を活用し、「企業に求められていることは何か」を考察し、表現する。(思) ワークシート
④	12月7日 (木)	<p>【労働①～課題が生まれる事象～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・就業形態が多様化し労働市場は大きく変化していること(AIやフリーランスなど)について理解する。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・労働問題に関するクイズを解き、なぜ労働基準法が必要なのかを考察し、理解する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・労働条件の改善、向上のために必要なことは何かについて、ワーク・ライフ・バランスを実施しているオランダを参考にして考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢で区分せずに能力や意思があれば働き続けられる雇用環境の整備、ワーク・ライフ・バランスの観点などから探究できるようにする。 ・日本の労働生産性が低い理由に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人 ワークシート ■ペアワーク 労働者の権利を守るために、労働基準法などが存在することを理解している。(知) ワークシート ■個人 ワークシート
⑤	12月12日 (火)	<p>【労働②～調べ学習～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本の労働問題に関連する、「ブラックバイト」2015. 5. 25 (朝日新聞)の記事を活用し、日本の労働問題の動向について理解する。 ○ 展開 <ul style="list-style-type: none"> ・提示した新聞記事を読み、どこが問題なのか、なぜそのようになってしまったのか、考察する。 ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルに巻き込まれた場合の対処方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用する新聞記事は、サービス残業や過労死、ブラックバイトなど幅広く考察できるものとする。 ・論点がある場合は、いくつかの新聞記事を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個人 ワークシート ■グループワーク 日本の雇用慣行に変化がみられ、非正規雇用の増加など、現代日本の労働問題の動向について考察し、表現している。(思) ワークシート ■グループワーク プリント

⑥	12月20日 (水)	<p>【消費者問題と消費者保護】</p> <p>○ 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人になるとはどのようなことか、ペアで考察する。 <p>○ 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約解消の例外とその理由について考察する。 <p>○ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者保護の観点から消費者契約法について触れるが、「消費者の権利は自分を守るためだけのものか」という点について、客観的に自らの消費行動についても見直し、次回につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者として、自らの利益の擁護及び増進のために、自立した消費者になるとともに、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を尊重する態度が大切であることを理解できるようにする。 	<p>■ペアワーク プリント</p> <p>■個人 さまざまな消費者問題に、行政や消費者自身はどう対応しているのかを考察し、表現する。(思) プリント</p> <p>■ペアワーク プリント</p>
⑦	12月22日 (金)	<p>【消費者の権利と責任～グループ活動～】</p> <p>○ 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計、企業、政府間の情報格差という情報の非対称性について理解する。 <p>○ 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来のためにできるちょっといいこと」について考察するため、学校に持ってきているものの中からエシカル消費マークがついているものを探す。 <p>○ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として自立すること、若年者の消費者被害の防止・救済の一環として、「18歳成人・コロナ後ホスト絡む相談急増」2023.11.28(朝日新聞)を活用し、成人になってから自分自身が気を付けたいこと、消費者としてどう在りたいか考察し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚するとともに、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画することが期待されていることについて理解できるようにする。 	<p>■グループワーク プリント</p> <p>■グループワーク 個人が探した商品のエシカル消費マークをグループで共有し、意味を理解する。(知) プリント</p> <p>□個人 成人になってから自分自身が気を付けたいこと、消費者としてどう在りたいか自分の考えを説明、論述する。(思)</p>
⑧	1月22日 (月)	<p>【単元のまとめ～課題解決に向けて～】</p> <p>○ 単元テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業、農業、公害、労働①・②、消費者問題と消費者保護、消費者の権利と責任に関連する知識問題を出题。 <p>○ 新聞活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季休業中の課題として、以下4題の新聞記事を提示。 ①「食材高騰産地も選べず」2023.12.5 北海道新聞 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規・非正規雇用、派遣労働者、女性や若者、高齢者、障害者など具体的な事例から考察する。 ・勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働組合の役割などを基に説明する。 	<p>□個人 単元テスト(思)</p> <p>□個人 新聞記事から、現在どのような制度が進んでいるのか、また、それを取り入れようとするならば、</p>

		<p>②「有機野菜評価の高まり実感」 2023.12.8 北海道新聞</p> <p>③「『家族と過ごす』学校休み OK」 2023.11.22 朝日新聞</p> <p>④「死亡団員にパワハラ 15 件」2023.12.8 読賣新聞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の中から②・③をテストに出題。 <p>○ 単元のまとめ(22日のテスト以降実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の雇用と働き方について、快く働ける職場とはどのようなものか、さまざまな視点から自分の考えを説明、論述する。 	<p>どのようなことに配慮する必要があるのか、自分の考えを説明、論述している。</p> <p>単元テスト(思)</p>
--	--	--	---

■指導改善につなげる評価 □評定に用いる評価

<p>授業のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治・経済の年間を通したテーマである「私たちが生きる社会はどのようにすればより良くなるのか」を基に、本單元においては、労働に関する問題について、現状を知ることや、世の中の動きを把握した上で、生徒自身の将来を見据えられるようにすること。 ・さまざまな労働者の立場の観点から、労働者それぞれの事情に考慮して、多面的・多角的に考察すること。 ・健全な労働環境について学習し、将来の職業選択に生かせるようにする。
<p>新聞を活用した場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目は、新聞記事を読むことに慣れることや、日本の今を知ることが目的として授業の導入にてコロナ後の中小企業の現状について理解する新聞記事を活用した。 ・2時間目で学習した農業分野は、冬季休業中の課題として提示し、単元テストにおいて活用した。 ・3時間目は、公害防止や環境保全に関連して、「企業に求められていることは何か」について考察するための参考記事として活用した。 ・4時間目で学習した労働①は、冬季休業中の課題として提示し、単元テストにおいて活用した。 ・5時間目は、日本のこれまでの労働問題の動向について考察するため、過去の新聞記事「ブラックバイト」2015.5.25(朝日新聞)と現在起こっている「死亡団員にパワハラ 15 件」2023.12.8(読賣新聞)を比較し、絶えず労働問題は発生していることに気付かせた。 ・6時間目は、消費者問題と消費者保護について学習し、その継続授業として7時間目に、若年者の消費者被害の防止・救済の一環として「18歳成人・コロナ後ホスト絡む相談急増」2023.11.28(朝日新聞)を活用した。 ・その他授業で活用しているグーグルのクラスルームにおいて、 <ul style="list-style-type: none"> 「週の労働日数に応じ付与」11.14 毎日新聞 「学び直し中賃金8割」11.14 毎日新聞 「中小補助基金に批判」11.14 朝日新聞 「ユニクロ原材料まで把握」11.22 毎日新聞 「人材確保低賃金が足かせ」11.22 北海道新聞

	<p>「闇バイト『100万円』につられて」 11.28 朝日新聞</p> <p>「地方公務員心壊す長時間労働」 11.28 北海道新聞</p> <p>「安楽投手のパワハラ認定」 12.1 北海道新聞</p> <p>「休みの日仕事の電話で？」 12.12 読売新聞</p> <p>「『安定』焦り可能性求め転職」 12.12 毎日新聞</p> <p>上記 10 題を載せ、多くの事象に生徒が興味関心を高められるように、新聞記事を提示した。</p>
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が今まで気付かなかった問題点や課題を発見し、自分を守る「働くルール」を身に付けることで自分らしい生き方を実現するキャリア教育が可能になった。 ・生徒が現実社会で起こっている問題を理解し、課題を考察することで、将来働く当事者になったときには、トラブルの事前予防につながり、どのようなことに注意すべきなのか、考察することができた。 ・さまざまな新しい制度や改革を新聞記事から読み取ることにより、生徒から「初めて知った。この制度があったらいいな」という意見が多くあったことから、生徒の興味関心を高め、授業をより充実させることができた。

※生徒の学習している様子

①中小企業 「中小企業に淘汰の波」 2023. 7. 11 日本経済新聞

【新聞記事で発見したこと】

要約: 人手不足や物価高、コロナなどの影響により、倒産企業が増えた。国からの支援も限りがあ、企業自体の強みがある。
 考えたこと: 国からの支援があまり見込めなから、働きの成長を促すことで企業の取組が大切になりそう。

【新聞記事で発見したこと】

要約: 人手不足や物価高で中小企業が相次いで倒産している。
 考えたこと: 雇用の仕方やはたさむのニーズが色々な形になっているから、その中でもあったらいいなと思った。

②公害 「持ち帰り容器にアルミ缶」 2023. 11. 14 読売新聞



【新聞記事で発見したこと】

要約: 入瓶したものをアルミ缶で持っていけるように開発した。その時税プラスアップ、再利用につながり、それを支援する人が多くいる

考えたこと: 音が少し高いと思ったので、ボトルが高く感じる人がいると考えました。また、味が変についてないか、衛生面が心配なのですが、脱アラにつながっていいと思いました。



賢い消費者になろう！

18歳成人・コロナ後 ホスト絡む相談急増

区内のホストクラブは約300店舗で、コロナ下より60店以上増えた。さらに玄さんは、2022年に成人年齢が18歳へ引き下げられ、「ホストクラブのターゲットが低年齢化した」と指摘する。

今年に入り、10〜20代前半の子を持つ保護者から相談が寄せられるようになった。これまでに約300件。支払い能力を越えたお酒代を借付され、借金を返せられずにいるケースが大半という。

大学生の親からの相談も多い。お酒代を返らしてもらえないからと学内で女子トイレ内、被害が連鎖している例も。札幌、岡山、熊本など地方からの相談も増えている。

悪質ホストクラブの特徴の一つが、「悪質」と呼ばれる明確のない手書きの借付書だ。ホストクラブを数回と、一晩で100万円以上請求されるケースもある。

玄さんの手元に1冊のノートがある。ホストクラブを辞めた男性から4月に入手したもので、ホストの研修内容が書かれているという。ホストについて「お金を払ってでも関係を作りたいと思える存在(心の空洞を埋める)」と記す。女性をのめり込ませる二つのテクニックは「顔をかける」と「地雷を置く」。ただ地雷を置くからというわけではない。むしろ「他店に行く予て最低だよね」と告げて他店に行かないよう誘導すると、「勝手に理想の女の子になる」としている。

玄さんは「悪質な悪質商法と言っている。たまにそれの方が悪いと考へるは間違いだ。悪質ホストクラブの借付金制度を規制すべきだと考へる。(二回要約)

「地雷」を置く ■ 女性の心に 100万円請求も

ホストの研修で渡された書籍を盗み出したというノート。「地雷を置く」などと女性の心理を語るテクニックが書かれている

2023.11.28 朝日新聞

⑥成人になってから自分自身が気をつけたいこと、消費者としてどう在りたいかなどの自由記述

成人になるとスマホを自分だけで契約できるようになるなどの様々な権利が得られるのと同時に、責任もともなってくるので、大人としての意識と正しい行動をしたいと思いました。また消費者として、値段が見た目で選んだだけでなく、SDGsなどに貢献している商品やマークがついているものに目を向けて、買うことも大切だと思いました。

[単元のまとめ②] 次の新聞記事を読み、下記の問いに答えよ。(5点)

2021年11月22日(日) 朝日新聞

「家族と過ごす」学校休みOK 欠席扱いしない制度 広がる

土日働く保護者と時間確保狙う

保護者の休みにあわせて平日に学校を休んでも、欠席扱いしない制度の導入が各地で進んでいる。土日に休みづらい仕事をしている家庭で、親子が一緒に過ごす時間を増やしてもらおうのがねらい。朝光需要の分散や有休取得の推進といった効果も期待されるといわれる。

(上地一穂)

沖縄県座間味村は、新年度から「たまやすみ」を導入する。保護者が目標を記し、事前申請すれば児童・生徒を「出席停止」扱いとする。年3日までで、家族が一緒に過ごすことが条件だ。

座間味村は人口約8800人の離島で、朝光や飲食などサービス業に携わる住民が9割を占める。教育委員会によると、大型連休や夏休みはタイピストなどに訪れる朝光客も増え、保護者の仕事も休みにくい。保護者が仕事を休むと、親子で過ごす時間の確保を議論していたところ、他県の休暇制度の取り組みを知り、導入を決めた。内申点への影響を気にしたり、皆勤賞に選ばれるのを避けたいという声もあつた。保護者の中には、朝光業務に就くため島に移住した人もおり、座間味島や県外に祖父母がいる児童も少なくない。

座間味の「ラーケーションの日」	保護者が休みの平日に、子どもと一緒に体験や探究の学び・活動を行う
目的	学んだことを話し合う
狙い	出席停止や退席などと同じ扱いで欠席とならない受け入れなかった授業の内容は家庭で学習をする
日数	年に3日まで 繰り越しは不可
手続	事前に届け出が必要



生徒も少なくない。担当者は「島外へ出るには日数が必要。気兼ねなく家族の時間を過ごしてもらいたい」と語る。

全国有数の温泉地・大分県別府市は9月、旅と学び（スタディ）を組み合わせた「たびスタ」を導入した。市内の小中学生が、平日に保護者と市外へ旅行する場面に利用できる。朝光需要は特定のため、交通設備を緩和したり、開校期に地域経済を活性化させたりするねらいもある。10月末までの2カ月間で、のべ270人が申請したという。愛知県も9月から、学び（ラーニング）と休み

「教育機会とバランス重要」

慶応大学の中西教子教授（教育経済学）は「子どもの教育効果をねらったというよりは、親の働き方や朝光業界などの要請に促された政策ではないか」とみる。子どもは

(パケーション)を組み合わせた「ラーケーションの日」を始めた。県内53市町村が来年1月までに順次取り入れる。

2021年の総務省の社会生活基本調査によると、全国で仕事に就いている人のうち、土曜日に働く人は43.4%、日曜日は28.0%。愛知県の担当者は「愛知県の『休み方改革』が全国に広がるよう率先する」と話す。

愛知県内の公務員で、NPO法人でまちづくりにも取り組む堀田真希さん(38)は10月、大学の講義のため1泊2日で東京を訪れた。小学3年生の長男、航希さんも制度を利用して同行した。同時に、親子でじっくりと向き合う時間ができた」と喜ぶ。

問1. 新聞記事を読み、傍線部(★)に関連してこのような制度についてあなたはどのように考えるか。家庭の立場や子どもの立場、学校の授業等を考慮して、教育機会のバランスについてどうすべきか、説明せよ。

学校の授業で親子の時間を作ろうとすると仕事は休めなかつたりで予定も合わないため、休みを気にする子のためにも、きちんと単位もとれて1人だけ授業に遅れることのないように教師・親子が相談して意見交換するべき。

Good

※生徒へのアンケート

・新聞活用実施前

- ①新聞を読んだことがある（または興味がある）： 29人／85人
- ②新聞を読んだことはない（または興味がない）： 56人／85人

・新聞活用実施後

- ①後期授業評価アンケートをGoogleフォームで実施したところ、「新聞の読み取りはこれからは繋がるからいいと思った」という記述が見られた。
- ②ブラックバイトなど、労働基準法に関わる新聞記事を多数取り扱い、1年間のまとめの自由レポートで課した記述では、「自分の働いていたアルバイト先で、働いていた時間通りに賃金が支払われていない時期があったので、労基法に気を付ける必要があり、学校の授業で習ったことが初めて役に立ったと思えた」と記述があったことから、生徒の印象に残る授業となったことが伺え、生徒の身近で起きている出来事等を実感することができる、新聞記事を活用した授業の効果は大きかったと考える。

2023(令和5)年11月21日

読売新聞東京本社
北海道支社 様

(公社)日本新聞販売協会
北海道地区本部長
鈴木 信善(YC新さっぽろ)

取材・紙面掲載のお願い

日頃からYCの業務、活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

(一社)北海道連合読売会は全国組織である日本新聞販売協会の北海道地区本部(加盟社＝朝日新聞、毎日新聞、北海道新聞、読売新聞)に加盟し、新聞の健全な普及活動と啓蒙活動等を進めています。

地区本部は協会本部と連携し、最近では、公職選挙法が改正され、高校3年生でも選挙権を有したため、希望する道内の公立、私立高校へ一定期間、無料で新聞を配布し、新聞の視点から見た世の中の動き、選挙報道等を、次代を担う若者たちへ伝える活動を続けております。この活動は、本年4月の統一地方選で5回目を数え、道教委高校指導課のご指導の下、道内4ブロックから1校ずつを選抜し、計4校に4月10日から5月19日までの期間、無料配布活動を実施しました。

また、本年11月14日から12月15日までの期間は、前掲同様、道内4校の高校へ、今回は学年を問わずに無料配布を実施し、授業に新聞を活用していただいております。つきましては、対象高校を取材され、紙面に掲載していただくことで、加盟社にとって大きな励みになると考えます。

取材先は連合読売会事務局の石寄が道教委と協議し、別紙の取材校、日程となりました。併せて各校への案内文、無料配布活動の実施要項、上磯高校の実施計画書を添付いたしました。何卒活動の趣旨をご理解され、ご協力をお願いする次第です。

以上

取材要項

▽取材校 北海道上磯高校

北斗市中野通3-6-1、電話0138-73-2304

▽取材日時

12月4日(月) 3時間目(午前10時50分～50分間) 科目:公共

※取材される方は午前10時30分までに同校へお越しいただくようお願いいたします。

▽取材窓口 早崎志保教頭

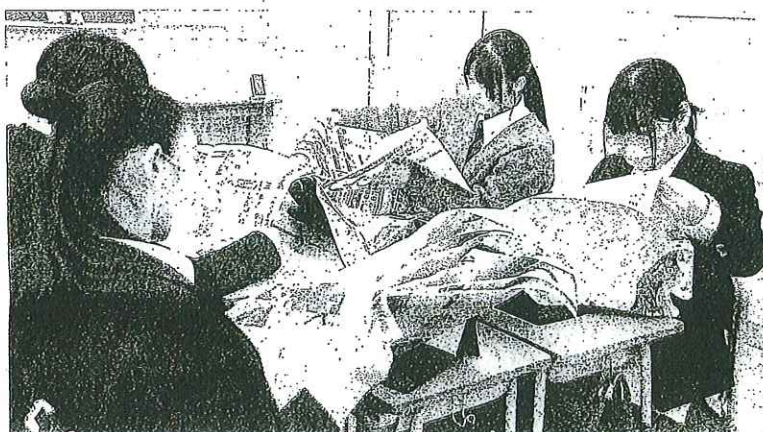
▽担当教諭 川邊智也教諭

※取材を希望される新聞社は事前に早崎教頭へご連絡をお願いいたします。お問い合わせ、
電話取材をされる場合も、早崎教頭へお願いいたします。

※「無料配布事業」へのお問い合わせは、連合読売会事務局 石寄へお願いします

(TEL 011-210-5213)

以上



授業で新聞を読む生徒(4日、上磯高校で)

新聞の見出し付け挑戦 北斗・上磯高で授業

北斗市の上磯高校で4日、読売新聞など新聞4紙を使った授業が行われた。高校生に社会問題への関心を持ってもらうことが目的で、日本新聞販売協会北海道地区本部が無料で配布した。

授業では、1年生15人が4グループに分かれて4紙を読み、「はこだてクリスマスファンタ

ジー」などの記事を要約、見出しを付けることにチャレンジした。

授業を受けた吉本悠史さん(16)は「様々な記事があることを実感した。法律に興味があるので、新聞を読んで参考にした。見出しを付けるには読み込む必要があり、記事への理解が深まった」と話していた。

考える力や言葉 新聞で学ぼう

高校生に新聞を読んで考える力を身につけてもらう狙いの授業が、北斗市の道立上磯高校(生徒数46人)で行われている。日本新聞販売協会北海道地区本部が教材として、朝日、毎日、読売、北海道の4紙を1カ月間無料で配布している。

4日、1年生(15人)の「公共」の授業があった。川辺智也教諭(33)が四つの班にこの日の朝刊各紙を渡し、記事の見出しの役割を説明した。「新聞の文字数は文庫本1冊分。毎朝全部を読めないなので、見出しを見て読むか、後にするか、読まないかを決められる」と話した。

生徒は、あらかじめ用意された函館市でのクリスマスイルミネーションの記事を要約しながら、ふさわしい見出し

北斗市・道立上磯高校で活用授業



4日付朝刊各紙を手にする上磯高校1年の生徒たち＝北斗市

を考え、「凍えるクリスマスツリー点灯」「函館 冬の特大イベント」などの案が出た。

吉本悠史さん(16)は「大事な部分や強調したい部分を見出しにするのが難しい。新聞を読んで法律のことを考えるようにしたい」。川辺教諭は「新聞の検討された言葉はお手本になる。言葉の使い方を学んでほしい」と話した。無料配布事業は今回で6回目。11月14日から、上磯、岩内、留萌、別海の4校で実施している。(野田一郎)